

# EU Indicators

発表日: 2019年5月23日(木)

## 欧州経済指標コメント: 5月ドイツIfo企業景況感

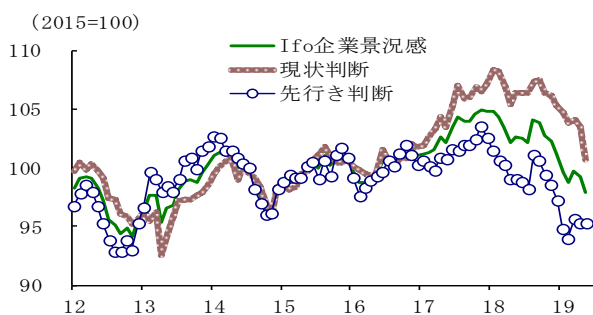
～リーマンショック級～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

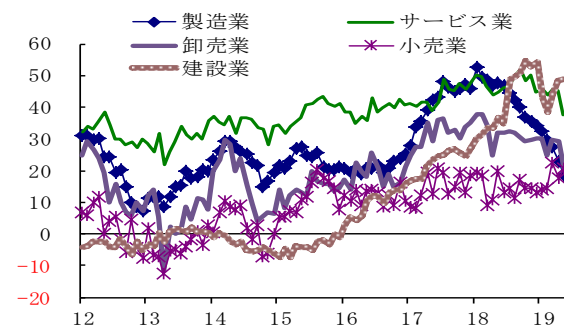
- 5月のドイツIfo企業景況感（2015年=100の指数）は2ヶ月連続で低下。先行き判断が前月から横這いとどまった一方、現状判断が前月から2.8ポイントと大幅に悪化した。単月の落ち込み幅としてはリーマンショック時に匹敵するが、2013年4月（3.6ポイント悪化）のように一時的な落ち込みにとどまったケースもある。
- 業種別の現状の業況判断（ゼロが分岐点）は、小売業（前月：+17.6→今月：+20.9）と建設業（+48.5→+48.7）が前月から改善した一方、卸売業（+29.4→+20.9）、サービス業（+45.3→+37.7）、製造業（+23.2→+18.6）が低下し、産業計の業況を下押しした。先行きの業況判断は、サービス業（+9.0→+5.3）、卸売業（▲8.6→▲10.9）が前月からプラス幅が縮小ないしマイナス幅が拡大した一方、建設業（▲2.2→+2.4）、製造業（▲13.4→▲9.6）、小売業（▲9.2→▲6.4）が改善した。
- 現状判断の落ち込みを主導した卸売業、サービス業、製造業のうち、卸売業とサービス業は先行き判断も悪化、製造業の先行き判断は改善している。製造業の業況悪化にやや歯止めが掛かってきているものの、これまで景気を下支えしてきた内需関連業種の業況が下振れし始めている点は気掛かり。単月の落ち込み幅が大きく、何らかの特殊要因が影響した可能性もある。ただ、同日発表されたPMIでも、ドイツの製造業・サービス業ともに雇用判断にブレーキが掛かり始めており、製造業部門を起点とした景気の落ち込みが内需周りに波及したかどうかには警戒を要する。

■ドイツ：Ifo企業景況感



出所：Ifo

■ドイツ：業種別の現状の業況判断



出所：Ifo

■ドイツIfo企業景況感

	2017				2018				2018											
	2Q	3Q	4Q	1Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
企業景況感(総合)	105.9	107.0	107.7	107.1	105.7	106.6	107.5	106.8	106.8	107.6	108.0	107.6	108.4	107.0	106.0					
現状指数	108.3	109.8	109.6	111.4	107.9	109.3	110.7	109.7	109.1	109.6	109.5	109.8	112.4	111.2	110.7					
先行き指数	103.6	104.3	105.8	102.9	103.6	104.0	104.4	104.0	104.6	105.6	106.5	105.4	104.4	103.0	101.4					
業況判断	22.6	25.0	26.4	25.1	22.2	24.1	26.0	24.5	24.5	26.1	27.0	26.1	27.7	24.9	22.7					
製造業	27.2	30.4	32.5	30.7	27.7	28.6	31.1	30.3	29.8	31.8	34.2	31.5	33.9	30.3	27.9					
建設業	13.7	16.3	17.3	17.6	13.6	14.6	15.4	16.2	17.3	18.2	16.1	17.6	17.6	16.2	18.9					
卸売業	22.8	23.7	24.0	23.8	19.5	25.4	25.5	22.1	23.6	21.7	25.3	25.1	25.4	24.8	21.3					
小売業	8.5	5.0	8.1	6.4	5.4	10.2	8.0	2.1	4.9	8.8	7.5	7.9	9.2	7.6	2.3					

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。